

地区	平成26年度			平成25年度			比較		
	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)
上越市全体	1,749.19	331	5.28	1,735.82	326	5.32	13.37	5	-0.04
合併前上越市	767.47	148	5.19	755.04	142	5.32	12.43	6	-0.13
安塚区	71.04	12	5.92	71.15	12	5.93	-0.11	0	-0.01
浦川原区	72.83	12	6.07	72.84	12	6.07	-0.01	0	0.00
大島区	33.28	17	1.96	33.31	18	1.85	-0.03	-1	0.11
牧区	73.34	14	5.24	73.34	15	4.89	0.00	-1	0.35
柿崎区	126.03	16	7.88	125.70	14	8.98	0.33	2	-1.10
大潟区	81.06	17	4.77	80.31	17	4.72	0.75	0	0.05
頸城区	105.90	19	5.57	104.37	19	5.49	1.53	0	0.08
吉川区	85.68	13	6.59	85.49	13	6.58	0.19	0	0.01
中郷区	43.75	10	4.38	43.83	11	3.98	-0.08	-1	0.40
板倉区	96.28	18	5.35	96.28	18	5.35	0.00	0	0.00
清里区	50.82	8	6.35	50.88	8	6.36	-0.06	0	-0.01
三和区	100.81	17	5.93	100.81	17	5.93	0.00	0	0.00
名立区	40.90	10	4.09	42.47	10	4.25	-1.57	0	-0.16

※除雪車台数は除雪ドーザの台数

車道除雪は13キロ伸び、1749キロに

今冬除雪計画

除雪車は大島、牧、中郷でそれぞれ1台減

上越市は5日、平成26年度の除雪計画を発表しました。県からの移管路線や市道路改良工事などで車道除雪の延長は13キロ伸び、歩道は5キロほど伸びました。



【リンドウ】リンドウ科の多年草。漢字で「竜胆」と書きます。花の色は、紫、青紫で、なかにはピンクや白もあるとか。花期は9月から11月です。花言葉は「誠実」「正義」「悲しむあなたに寄り添う」など。一輪だけ咲いている姿は寂しそうです。

除雪計画が発表された市議会建設企業常任委員会では、市の計画に対する質疑も行われました。委員からは、国道、県道との接点について対応、除雪に伴う苦情件数、除雪車減の影響などの質問が相次ぎました。

このうち、国・県道との接点の除雪については、雪対策室長が県に協力を要請したと答えていました。また、大島区、牧区、中郷区で除雪車がそれぞれ1台減少することで問題はないかとの質問にも、「他地域と比較して1台あたりの受け持ち延長は短く、計画どおりやっても間に合うと考えている」と答えました。山間部の受け持ち延長が短いのはそれだけの理由があり、今後、どうなるか注視していきたいと思えます。

昨年度の除雪に関する苦情は約800件で、このうち500件は旧市内の市街地からの者となっていると答えがありました。

市議会厚生常任委が「いきいきサロン」等を視察

「背筋をピンと伸ばしてください。背もたれにおっかからないと10歳若返りますよ」社会福祉協議会のSさんの指導で参加者全員がピンと背



を伸ばします。郷土の民謡、春日山節に合わせて手を動かし、足を動かす体操、チャチャチャン、チャチャンというリズムに乗って、「そうだ そうだ その意気だ その心意気」とやる。いやー、みんな楽しそうでした。いきいきサロンの後は支え合いマップ作りをしている北城4丁目を訪問、地域の支え合いで要援護者を救済する仕組みづくりを視察しました。説明をされた人の「役割ができることみんな生き生きとしてくる」「知ることによって助けられる」という言葉が印象に残りました。視察は4日、行われました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1682 2014.11.9
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

地区	平成26年度			平成25年度			比較		
	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)
上越市全体	1,749.19	331	5.28	1,735.82	326	5.32	13.37	5	-0.04
合併前上越市	767.47	148	5.19	755.04	142	5.32	12.43	6	-0.13
安塚区	71.04	12	5.92	71.15	12	5.93	-0.11	0	-0.01
浦川原区	72.83	12	6.07	72.84	12	6.07	-0.01	0	0.00
大島区	33.28	17	1.96	33.31	18	1.85	-0.03	-1	0.11
牧区	73.34	14	5.24	73.34	15	4.89	0.00	-1	0.35
柿崎区	126.03	16	7.88	125.70	14	8.98	0.33	2	-1.10
大潟区	81.06	17	4.77	80.31	17	4.72	0.75	0	0.05
頸城区	105.90	19	5.57	104.37	19	5.49	1.53	0	0.08
吉川区	85.68	13	6.59	85.49	13	6.58	0.19	0	0.01
中郷区	43.75	10	4.38	43.83	11	3.98	-0.08	-1	0.40
板倉区	96.28	18	5.35	96.28	18	5.35	0.00	0	0.00
清里区	50.82	8	6.35	50.88	8	6.36	-0.06	0	-0.01
三和区	100.81	17	5.93	100.81	17	5.93	0.00	0	0.00
名立区	40.90	10	4.09	42.47	10	4.25	-1.57	0	-0.16

※除雪車台数は除雪ドーザの台数

今冬除雪計画 除雪車は大島、牧、中郷でそれぞれ1台減

上越市は5日、平成26年度の除雪計画を発表しました。県からの移管路線や市道路改良工事などで車道除雪の延長は13キロ増、歩道は5キロ減ほど伸びました。

車道除雪は13キロ増、1749キロに

除雪計画が発表された市議会建設企業常任委員会では、市の計画に対する質疑も行われました。

委員からは、国道、県道との接点について対応、除雪に伴う苦情件数、除雪車減の影響などの質問が相次ぎました。

このうち、国・県道との接点の除雪については、雪対策室長が県に協力を要請したと答えていました。また、大島区、牧区、中郷区で除雪車がそれぞれ1台減少することで問題はないかとの質問にも、「他地域と比較して1台あたりの受け持ち延長は短く、計画どおりやっても間に合うと考えている」と答えました。山間部の受け持ち延長が短いのはそれだけの理由があり、今後、どうなるか注視していきたいと思えます。

昨年度の除雪に関する苦情は約800件で、このうち500件は旧市内の市街地からの者となっていると答えがありました。

市議会厚生常任委が「いきいきサロン」等を視察

「背筋をピンと伸ばしてください。背もたれにおっかからないと10歳若返りますよ」社会福祉協議会のSさんの指導で参加者全員がピンと背



吉川区の文化展、今年もほればれする作品がいくつもありました。大好きな押し花作品の一部を紹介します。

を伸ばします。郷土の民謡、春日山節に合わせて手を動かし、足を動かす体操、チャチャチャン、チャチャンというリズムに乗って、「そうだ そうだ その意気だ その心意気」とやる。いやー、みんな楽しそうでした。いきいきサロンの後は支え合いマップ作りをしている北城4丁目を訪問、地域の支え合いで要援護者を救済する仕組みづくりを視察しました。説明をされた人の「役割ができることみんな生き生きとしてくる」「知ることによって助けられる」という言葉が印象に残りました。視察は4日、行われました。



はしづめ法一の活動レポート

No.1682 2014.11.9

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628 吉川有線 4867

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三三〇回

小さなドライバー

たった一個の小さなドライバーでも人生に大きな影響を与えることがあるんですね。先日、東京吉川会で再会したMさんから旧吉川町時代の、それもかなり遠い日の思い出を語っていただき、心を動かされました。

Mさんの実家は旧吉川町立竹直小学校の入り口付近にあるお店です。いまから五〇年程前のこと、Mさんは小学校の北側に住んでいたNさんから小さな段ボール箱をもらいました。この箱はNさんの息子のFさんが就職するにあたって、家に置いていったもので、中にはラジオの部品などが入っていました。

Nさんからは、「おまんの趣味に合いそうなものもあるから、みんなあげる。いらなかったら捨ててくれ」と言われたそうですが、箱の中にはMさんが「これはすごい」と思ったものが入っていたのです。それは手づくりの小さなマイナスインドライバーでした。

このドライバーは針金を加工して主軸をつくり、桐の木の小さな枝を使った柄で支えられていました。Mさんが目を見張ったのは、主軸が柄の中で空回りしないようにと、柄にブリキ板をくぎ打ちし、その板に主軸をはんだ付けしてあったところでした。Mさんは、この空回り防止の知恵に驚き、宝物を手に入れたと思ったそうです。

小さなドライバーを手にしたMさんは、その後、「何事でもよく考え、より良い方法はないものか」を探る精神を大事にするようになったと言います。親しくしていた人が作ったということもあるでしょうが、小さなドライバーにこめられた見事な創意と工夫を人生の指針のひとつにしたのです。

東京吉川会の総会と懇親会は毎年一月上旬に行われます。Mさんは今年の総会をめぐらして、五〇年ほど前に手にした小さなドライバーを複製しました。Mさんはこの複製品を東京吉川会の会場でFさんに渡そうと思ったのです。Mさんは自宅の庭にある木の小枝、クリーニング屋さんの針金製ハンガー、焼き海苔の空き缶などを材料にして、Fさんがドライバーをつくっている情景を思い起こしながらつくったと言います。

私がMさんからこのドライバーの話聞いたのは懇親会の後半になってからです。MさんのテーブルにはMさんの同級生だという国田出身のAさんやKさん、原之町出身のYさんなどがいて、私がこのテーブルの人たちとどこへ挨拶に行った時には、楽しい会話の真っ最中でした。Mさんは私の顔を見るとニコニコしながら、カバンの中からA4サイズのファイルにとじられた「散遊記」を取り出し、「読んでみてください」と渡されました。そして、突然、決意したように、もうひとつ、白い封筒を取り出したのです。「これも持って行ってくんない」そう言って渡された封筒はカレンダーを再利用したもので、その中には複製した小さなドライバーとともにFさんにあてた短い手紙も入っていました。

じつはこの日、Fさんは参加されていなかったのです。Mさんは私に渡してくださいました古利根川や綾瀬川などの川辺を歩いた自らの記録、「散遊記」については少し説明しただけで、ドライバーを複製するにいたったこれまでのいきさつをゆっくり語ってくださいました。それだけ、このドライバーにたいする思いが強かったのでしょう。

複製された小さなドライバー、軸の長さは約一〇センチ、直径二センチほどの小枝の軸受にしっかりと付いていました。軸の先っぽは巾三ミリのマイナスのドライバーですが、Mさんの人生には大きなプラスになりました。私の推測ですが、Mさんは多分、今頃、Fさんへ贈る複製ドライバーをもう一個制作されていると思います。

東京吉川会、ふるさとを軸に今年も楽しく交流

第22回東京吉川会が2日、都内のホテルで行われました。参加者は昨年より10人ほど多い80数人でした。このうち吉川区など上越市からの参加者は14人でした。

総会では平山勇会長が挨拶兼活動報告を行い、越後よしかわ酒まつりに参加したことなどを語り、ふるさとを思い、親睦を深めていこうとのべました。また関原副市長も駆けつけ、参加者を激励しました。

内先生をはじめ、何人もの方が私に声をかけてくださり、楽しいひと時を過ごすことができました。最後は「故郷」の全員合唱です。私も舞台上がり、一緒に歌いました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月29日(水)	11月5日(水)
上越南消防署	0.033	0.043
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.053	0.040
東頸消防署	0.047	0.050
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.043	0.040

この日は朝6時に吉川区総合事務所を出発、マイクロバスで東京へ。懇親会で私は、「今回で私は10回連続の参加。昨晩はどんな人に会えるかと興奮して3時間半しか眠れなかった。だが、2時間しか眠れなかった人もいる。共通のふるさとを持つ者として楽しく交流を」と挨拶させていただきました。

会場では同級生同士声を掛け合って参加したというグループが2つもありました。代石のように出身集落で集まり、記念写真を撮った人たちもいます。懇親会ではテーブルをまわって友人と語る人、舞台上がってしゃべりを楽しむ人もありました。今回も東北大名誉教授の竹



春よ来い

第三三〇回

小さなドライバー

たった一個の小さなドライバーでも人生に大きな影響を与えることがあるんですね。先日、東京吉川会で再会したMさんから旧吉川町時代の、それもかなり遠い日の思い出を語っていただき、心を動かされました。

Mさんの実家は旧吉川町立竹直小学校の入り口付近にあるお店です。いまから五〇年程前のこと、Mさんは小学校の北側に住んでいたNさんから小さな段ボール箱をもらいました。この箱はNさんの息子のFさんが就職するにあたって、家に置いていったもので、中にはラジオの部品などが入っていました。

Nさんからは、「おまんの趣味に合いそうなものもあるから、みんなあげる。いらなかったら捨ててくれ」と言われたそうですが、箱の中にはMさんが「これはすごい」と思ったものが入っていたのです。それは手づくりの小さなマイナストライバーでした。

このドライバーは針金を加工して主軸をつくり、桐の木の小さな枝を使った柄で支えられていました。Mさんが目を見張ったのは、主軸が柄の中で空回りしないようにと、柄にブリキ板をくぎ打ちし、その板に主軸をはんだ付けしてあったところでした。Mさんは、この空回り防止の知恵に驚き、宝物を手に入れたと思ったそうです。

小さなドライバーを手にしたMさんは、その後、「何事でもよく考え、より良い方法はないものか」を探る精神を大事にするようになったと言います。親しくしていた人が作ったということもあるでしょうが、小さなドライバーにこめられた見事な創意と工夫を人生の指針のひとつにしたのです。

東京吉川会の総会と懇親会は毎年一月上旬に行われます。Mさんは今年の総会をめぐらして、五〇年ほど前に手にした小さなドライバーを複製しました。Mさんはこの複製品を東京吉川会の会場でFさんに渡そうと思ったのです。Mさんは自宅の庭にある木の小枝、クリーニング屋さんの針金製ハンガー、焼き海苔の空き缶などを材料にして、Fさんがドライバーをつくっている情景を思い起こしながらつくったと言います。

私がMさんからこのドライバーの話聞いたのは懇親会の後半になってからです。MさんのテーブルにはMさんの同級生だという国田出身のAさんやKさん、原之町出身のYさんなどがいて、私がこのテーブルの人たちとどこへ挨拶に行った時には、楽しい会話の真っ最中でした。Mさんは私の顔を見るとニコニコしながら、カバンの中からA4サイズのファイルにとじられた「散遊記」を取り出し、「読んでみてください」と渡されました。そして、突然、決意したように、もうひとつ、白い封筒を取り出したのです。「これも持って行ってくんない」そう言って渡された封筒はカレンダーを再利用したもので、その中には複製した小さなドライバーとともにFさんにあてた短い手紙も入っていました。

じつはこの日、Fさんは参加されていなかったのです。Mさんは私に渡してくださいました古利根川や綾瀬川などの川辺を歩いた自らの記録、「散遊記」については少し説明しただけで、ドライバーを複製するにいたったこれまでのいきさつをゆっくり語ってくださいました。それだけ、このドライバーにたいする思いが強かったのでしょう。

複製された小さなドライバー、軸の長さは約一〇センチ、直径二センチほどの小枝の軸受にしっかりと付いていました。軸の先っぽは巾三ミリのマイナスのドライバーですが、Mさんの人生には大きなプラスになりました。私の推測ですが、Mさんは多分、今頃、Fさんへ贈る複製ドライバーをもう一個制作されていると思います。

いろいろな人が支え合い、励まし合い、すばらしい教育を

上越市教育の日制定記念式典・記念文化講演会が1日、文化会館で行われました。

村山市長が挨拶、教育の日の制定の意義などについて語りました。中

野教育長が教育の日の制定宣言と会言葉を紹介した後、シンボルマークの発表・表彰が行われました。

「いろいろな人が支え合い、励まし合って、いまよりもすばらしい上越市になるように」という思いを込めてシンボルマークを制作したと語ったのは最優秀賞を受賞した富岡小学校5年生の道市陽菜さん。しっかりしていたのにはびっくりでした。

記念講演は尾木ママこと教育評論家の尾木直樹さんです。

ホールの脇の入り口から手を振り、握手しながら入場というスタイルはまさに芸能人、スターといった感じでした。「直江津駅を降りるとホッとする。なにか安心できるんだよね」といいながら、聴衆の心をぎゅっとなつかんで、最初から終わりまでずっと離さなかったのはお見事でした。話

に引き込まれ、メモは時どきしかとれませんでした。そのいくつかを拾ってみると、「学校と同じことを家庭でやってはだめ。学校と家庭は別、同心円にならないようにして、重なる部分を大事にすることです」「勉強できるようにする上で決定的なことは安心感です。安心感が集中力を高めます」「基本的信頼感と共感する心が大事です。人間関係で大事なことは心が元気になることです」。記念講演にふさわしい話の内容でした。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月29日(水)	11月5日(水)
上越南消防署	0.033	0.043
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.053	0.040
東頸消防署	0.047	0.050
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.043	0.040

